

人口ビジョンから観る安芸高田市創生

安芸高田市では、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」並びに「総合戦略」の趣旨を踏まえ、本市における人口の現状分析を行い、人口に関する認識を市民の皆様と共有する中で、本市が今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すため「安芸高田市人口ビジョン」並びに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

本市の総合戦略を策定するに当たっては、言うまでもなく国の総合戦略を勘案することが必要であります。国の長期ビジョンでは、人口の現状分析と将来展望の策定に際し、人口減少が経済社会に与える影響の分析や、人口減少に歯止めをかける「積極戦略」と、人口減少に対応する「調整戦略」を同時に推進することが大切とされています。

また、移住の希望や若い世代の就労・結婚・子育ての希望など、国民の希望の実現に向け全力を注ぐ等の視点を提示されています。

本市の人口「ミッド」をみると、全国では団塊の世代と団塊ジュニア（30～39歳）の人口が多い「ひょうたん型」であるのに対し、安芸高田市の現状は、団塊の世代と昭和・一桁生まれの女性が多く、団塊ジュニアの山が比較的小さいのが特徴であります。

とりわけ、高校や大学進学時に若年世代の市外転出が大きく影響し、特に20～24歳の人口は極端に少なくなっています。これら若年層の減少が、本市の人口減少を加速するひとつの大きな要因と思われる。本市では、1975（昭和50）年以降人口減少が続いております。そして高齢化率は着実に増加しています。2000（平成12）年には高齢化率は30%を超え、2015（平成27）年では37%と高い水準にあります。このことは、人口減少と少子高齢化が着実に進んでいることを表しています。

人口増減は自然動態（出生・死亡）と社会動態（転入・転出）の二つの要因に基づきます。本市の自然動態について分析すると、出生数は、1980（昭和55）年以降、出産年齢人口の減少に伴って、2013（平成25）年にはピーク時と比較して約6割が減少しました。

一方、死亡数の推移は多少の増減はあるものの、大きな変化は見られません。しかしながら高齢者人口は着実に増加してきており、今後更なる増加が見込まれます。国立社会保障・人口問題研究所による本市の将来推計人口によると、今後10年間の自然動態による人口増減は約2,700人の減、つまり1年間で約270人（平均値）の人口減と試算しています。また、社会動態による人口増減は10年間で約1,000人の減、つまり年間約100人（平均値）の人口減となります。自然動態の減と社会動態の減を合わせると、10年間で約3,700人、年間約370人の人口が減少することになります。

この本市の「人口ビジョン」に基づき策定した「安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、まちづくりの基本となる「第2次安芸高田市総合計画」において設定した目標人口を踏襲し、5年後の2019（平成31）年の人口28,100人を28,500人（+400人）、10年後2024（平成36）年の人口26,300人を27,500人（+1,200人）にするとして、本来の自然趨勢（すうせい）による推計値より高く設定しました。

この目標人口の達成のための設定条件としては、①自然動態の減少幅を抑制する施策として、合計特殊出生率を国が設定した国民希望出生率である1.88に引き上げる（現在は1.66）、②社会動態の減少幅を抑制する施策として、現在約200人の転出超過となっている10～19歳の若年世代の移動率を30%（約140人）改善する。③U・イーターンの促進として、子どもを連れてのU・イーターン等を年間1組成立させる。

以上、これらの設定条件を満たせば、結果の考察として10年後の目標人口である2万7,500人が達成できることとなります。厳しい設定ではありますが、職員が一丸となって、この課題の解決に向かって努力し、市民の皆様のご協力が得られれば、実現は可能と思っております。

安芸高田  
消防



安芸高田市消防本部・安芸高田消防署  
TEL 42-0931 FAX 47-1191  
HP http://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/119/

住宅用火災警報器調査結果  
の1つ報告

広報あきたかた4月号でお知らせしましたとおり、無作為に抽出した市内の43世帯を対象に住宅用火災警報器の設置状況調査を実施しました。

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

【設置率】

安芸高田市	86%	（県内6位）
広島県	87.5%	（全国7位）
全国	81%	

昨年と比べると市内の設置率は9ポイント増加しております。

これまで住宅用火災警報器を設置していたおかげで、早期に火事を発見でき大惨事になることを防げた等の事例が多数報告されています。命や財産を守るために住宅用火

安芸高田消防署  
9月の出動件数

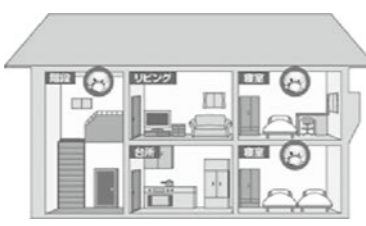
火災	0件	(27件)
救急	109件	(999件)
救助	2件	(16件)
その他	0件	(23件)

※下段の( )は平成27年の累計

災害警報器を正しく設置しましょう。

【正しい設置場所】  
全ての寝室が対象となります。（子ども部屋などでも、就寝する部屋は対象）

また、原則として2階以上に寝室がある住宅の階段には設置しなくてはなりません。なお、浴室、トイレ、洗面所、納戸などは対象外です。



【電池切れや故障に注意】

火災ではない時に音がする場合やボタンを押したり、ひもを引っ張っても音が出ない場合は、電池切れや故障の可能性ががありますので、定期的に確認してください。

これは、地域防災組織育成助成事業の中で幼年消防クラブの育成及び防火思想の普及啓発を目的とし、宝くじの助成金で整備したものです。今後の行事や各種イベントなどで防火防災の啓発活動に活用されます。



8月24日（月）一般財団法人自治総合センターの平成27年度コミュニティティー助成事業として、向原こばと園に幼年消防鼓笛セットを贈呈しました。



低血糖が原因で意識状態が悪くなっている可能性がある傷病者に対して血糖の測定を行い、血糖値が異常に低くなっている場合は、ブドウ糖溶液を点滴から投与することで意識の状態が改善されることを期待し行う処置です。また、血糖の測定を行うことは、搬送先の選定などに有効です。

【開始される処置】  
・心肺停止前の重度傷病者に  
対する静脈路確保と輸液  
多量の出血やアナフィラキシーショック、熱中症などが原因で血圧が異常に下がるなどの症状がある場合や、長時間機械などの重量物に挟まれていた傷病者に静脈路確保と輸液（点滴）を行い、症状の悪化を防止するため行う処置です。

【救急救命士の拡大処置開始!!】  
厚生省令等が改正され、救急救命士が行うことができる処置が拡大されました。安芸高田市消防本部では、実施に当たり必要となる講習を修了した救急救命士6名を配置し、7月29日から運用を開始しました。

減らそう犯罪 知っていますか 社団法人広島被害者支援センター

同センターは、犯罪被害に遭われた被害者とその家族を支援する民間団体で、電話・面談相談をはじめ裁判所への付き添いなどの直接支援事業やさまざまな被害の早期回復や軽減を図るための支援活動をしています。

◎ひとりで悩まないでこんなときに電話して下さい  
○事件や事故に遭ってしまった  
○心に深い傷を負った

◎家族が被害を受けた  
広島被害者支援センターは「犯罪被害者等早期援助団体」で、犯罪・事故の被害者やその家族をサポートします。

電話・面談での相談 まずは電話して下さい  
**082-544-1110**  
広島市中区立町1-24 社団法人広島県被害者支援センター

安芸高田警察署交通ミニコーナー H27.9未現在  
●平成27年交通事故発生状況（年間累計） 安芸高田警察署管内

区分	本年	前年	前年同期比増減数
人身事故	77件	90件	-13件
死者数	3人	0人	+3人
負傷者数	104人	138人	-34人

○管内交通事故の特徴  
・追突事故（信号待ち）  
・横断歩道横断中の歩行者と車両の衝突  
※9月中の人身交通事故は13件でした

安芸高田市で今年3件目の交通死亡事故発生!  
発生日時 9月11日（金）午前7時55分ころ  
発生場所 吉田町の県道（吉田邑南線）  
状況 横断歩道を横断中の女性と車両が衝突し死亡  
県内で、道路横断中の死亡事故が多発  
●道路を横断する際は、必ず立ち止まり左右の確認を  
●運転する際は、安全速度で横断歩道では歩行者確認を  
☆広島県警では、「年間交通事故死者数90人以下」の達成に向けて「なくそう交通死亡事故・アンダー90作戦」をキャッチフレーズに交通死亡事故抑止に向けた取組を展開しています。  
～皆様のご協力をお願い致します～

